

助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホーム かりん

代表者・役職名 氏名 平井 誠敏

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

新規開設ホームの自転車購入事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

同法人で1991年に開設した慈泉寮のノウハウを基に2017年に「就学者自立生活援助事業」が制度化されたことを受け、就学者専用の女子ホームとして2018年4月1日に「かりん」を開設しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

金銭面の負担を少しでも減らし、入居者の暮らしの利便性を高めることができると考えております。自立援助ホームでは、日用品等何も持たずに入居をしてくる子どもたちがほとんどです。日々、生活をしていくことに手一杯で彼らの移動手段としては必須である自転車を購入するまでに至ることができないのが現状です。新規ホームを開設するにあたり、様々な分野でコストがかかることから自転車の購入費用までは捻出できないため、この度、助成金を申請させていただきました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

入居者の貸し出し用自転車として計4台の自転車購入を考えております。日々、通勤と通学に要する入居者の負担を少しでも減らすことができるよう考慮した結果、電動アシスト自転車2台、自転車2台を助成金にて購入できればと思います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

自転車を購入したことで交通機関を利用しなくても行ける範囲が広まり、子どもたちから喜びの声が上がっています。現在は学校やアルバイト、買い物等に使用させていただいています。車を使用するケースが格段に減り、ガソリン代等のコストも軽減され、子どもたちとのコミュニケーションも増えたことから、プロジェクトの効果を実感しております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

入居者とのコミュニケーションを大切に、今まで以上に子どもたちの支援に力を注いでいきたいと考えております。就学者専用の自立援助ホームということで、個々の在籍期間も長く、それぞれの支援のあり方も変わってきています。一人ひとりが安心して生活できる環境のもと、社会性や協調性を養っていきけるよう、職員一丸となって支援に取り組んでいきたいです。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

